

礼文の森から

宗谷森林管理署
礼文森林事務所

国産材の割り箸は日本の森林を育てています

皆さんは「割り箸」についてどれくらいのことをご存じでしょうか？

日本の割り箸は、「資源を大切に作る心」から生まれた日本独自のアイディア商品です。本来は捨てられる製材等の端材（＝はざい：必要な部分を切り取ったときにできる余った木片など）や間伐材を有効活用して作られています。

しかし、現在の国内における割り箸の生産量は減少傾向にあります。国内で消費されている割り箸のうち約97%が中国産を主とする輸入品となっています。

国産間伐材を原料とする割り箸の価格は、輸入割り箸の約3倍となっているため、価格競争に負けて国内の割り箸生産量が減少しています。しかし、中国はもともと森林が豊かではありません。日本は国土の約7割が森林なのに対し、中国は2割ほどです。

割り箸は本来、森林資源の有効活用のために作られました。しかし、中国からの輸入に依存している現在では、割り箸を作るために他国の木が伐られるようになってしまったわけです。林野庁は、国産材利用の意義を広め、実需の拡大につなげていくため、国民運動として「木づかい運動」を行って、国産材を利用することを勧めています。

以前にお伝えした通り、国産材の需要が拡大すれば日本の人工林から木が伐り出され、森林整備が進みます。日本の割り箸の生産は、山村経済の活性化につながり、間伐等の森林の手入れを促進することにつながります。そして、荒廃が目立つ今の日本の森林をCO2をたっぷり吸収する健全な森林をつくることにもつながるといえるのです。これを機に、**割り箸を使うなら国産材**のものを選んでいただければ幸いです。

